

WCS用稲「つきすずか」の収量調査を行いました

「つきすずか」は、牛がほとんど消化できないモミの割合が少ない極短穂茎葉型のホールク
ロップサイレージ（子実と茎葉を一体的に収穫し発酵させた飼料、以下WCS）専用イネの新品
種です。令和4年は、県下1カ所で50aの作付けでしたが、今年は4カ所で210aの作付けとな
りました。

栽培概要は、表1のとおりで田植えは6月上旬から下旬に行い、収量調査を9月下旬から10月
中旬に行いました。

表1 栽培概要

場所	面積 (a)	播種日	田植え日	出穂日	収量調査日	刈取り日
伊勢原市①	40	5月10日	6月7日	9月1日	10月2日	10月12日
平塚市	50	5月15日	6月13日	8月29日	9月26日	10月1日
伊勢原市②	80	5月20日	6月18日	9月7日	9月26日	9月29日
海老名市	40	5月29日	6月26日	9月11日	10月10日	10月24日

収量は、表2のとおりで茎葉とモミを合わせた乾物全体で1,324~2,116kg/10aで平均
1,666kg/10aとなり、日本草地畜産種子協会のカタログ値（1,730kg/10a）と比較して同程度で、
他の飼料作物では、デントコーン並みの収量となりました。牛のエサとして不消化物のモミの割
合は平均17%程度であり、カタログ値2.9%と比較して高い値となりましたが、茎葉が主体の粗
飼料と考えられます。

病害虫被害は、モンガレ病とバカ苗病発生ほ場が1カ所、アカガレ症状が2カ所、ツトムシ多
発が2カ所ありましたが、生育期間が高温で推移したため生育は順調でした。

表2 収量調査結果

場所	調査日	熟期	現物収量 (kg/10a)			乾物率 (%)		乾物収量 (kg/10a)		
			茎葉	もみ	全体	茎葉	もみ	茎葉	もみ	全体
伊勢原市①	10月2日	黄熟後期	3,111	222	3,333	37	76	1,155	169	1,324
平塚市	9月26日	糊熟後期	5,559	365	5,924	34	70	1,862	254	2,116
伊勢原市②	9月26日	糊熟後期	4,274	396	4,670	30	61	1,278	241	1,519
海老名市	10月10日	黄熟後期	3,996	480	4,476	34	75	1,347	359	1,706

刈取りをした稲は、水田で数日間乾燥をさせ、酪農家が所有するロールベアラーで収穫調製さ
れWCSとなりました。

畜産技術センターは、収穫調製された稲WCSの成分分析や発酵品質等の調査をおこない、飼
料として有効利用できるように支援します。また、この結果を他の酪農家や関係機関に情報提供
しWCS用稲の普及を推進します。

収量調査



収穫調製作業



モーターコンディショナーによる刈り倒し



小型ロールベラーによる収穫調製後、ラップを巻きサイレージ化